



## 編集後記

### 『社会貢献活動年間報告書 2010』の発行にあたって

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、岩手、宮城、福島を中心として各地に未曾有の被害をもたらしました。福島第一原子力発電所の放射能汚染事故は今なお多くの国民に不安と恐怖をあたえ続けています。被害にあわれた方々には心からお見舞いを申し上げます。

6冊目となる今回の「社会貢献活動年間報告書 2010」は、2010年1月から12月までの一年間に「機構」と会員が実施した社会貢献活動の実態を取りまとめたものです。故に今回の大震災関連で全国の会員が積極的に展開している活動実績は掲載されていませんが、まさに現在進行形の社会貢献活動の実態は来年発行する予定の「2011年版」で、多くの・多彩な社会貢献活動をご報告できるものと信じています。

今回の2010年版は、東日本大震災による被害の復旧や原子力発電所事故への対応等を踏まえて「連帯と絆」をテーマとし、自然や社会との真の共生のため、我々の社会貢献活動はいかにあるべきかを見つめ直す機会になればと考えました。

巻頭の細川佳代子さんとの対談で、堀田力会長は「業界はまずは、本業のサービスで地域社会に貢献する。パチンコなんてとんでもないと

いう人もいますが、日ごろのストレスを解消する息抜きの場というものが地域には必要」といい、「大きな車にパチンコやスロットを積んで行って、避難所や仮設住宅のそばで楽しんでもらうというような方法も考えていい」と述べています。

この様な会長の言葉は、日本中に蔓延する自粛ムードや、楽しむ事を悪とするような閉塞感を払拭し、いわれなき一連のバッシングにも打ち勝ち、前向きに進む勇気とやりがいを感じさせるものです。

この報告書は、「機構」の会員はじめ全国の自治体・警察・経済界・図書館・マスコミなど各方面にお送りしていますが、2009年版からは全国のNPO支援センターにもお送りする事にしました。「機構」と全日遊連の社会貢献活動への取り組みの実態を更に多くの皆さんにお知らせする事によって遊技業界への理解促進とイメージアップを図りたいと願っています。

なお末筆では有りますが、ご退任されました塩川正十郎前会長には長年にわたりご指導を賜りました。この場をお借りして、事務局一同からお礼と感謝を申し上げます。

平成23年(2011年)7月吉日  
全日本社会貢献団体機構 事務局長 小林弘文

AJOSC (All Japan Organization of Social Contribution の略称です)

#### 社会貢献活動年間報告書 2010

■発行日:平成23年(2011年)7月20日

■編集・発行:全日本社会貢献団体機構

〒162-0844 東京都新宿区市谷八幡町16市ヶ谷見附ハイム103

<http://www.ajosc.org>

■編集協力:株式会社エム・シー・エー

■印刷:ヨシダ印刷株式会社